

別紙様式1		令和6年度 学校評価表				(中間)		三原市立本郷小学校				校番(17)						
a 学校教育目標		夢大きく心豊かな児童の育成 ～知・徳・体 キラリと光る三つ巴っ子～				b 経営理念 ミッション・ビジョン		【ミッション】(自校の使命) 自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 地域を愛し、確かな学力と豊かな心を持ち心身共に健康な子どもを育成し、地域・保護者から信頼される学校										
評価計画										自己評価				改善方策		学校関係者評価		
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント			
						h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ				
確かな学力	すすんで学び、よく考え豊かに表現する児童を育成する。	◎基礎・基本の学力向上 ★学力テスト等目標値達成率の向上(国語科・算数科)	○学習の重点と系統性を意識した各学年の指導 ○単元末テスト、学力調査の結果を分析・活用 ○児童と設定する課題づくりとR80Iによる振り返りの充実	○学期末テスト80点以上の児童の割合(%) ○CDT学力テストの結果 ○R80(接続詞を使って2文)で振り返りをすることができたという児童の割合(%)	80% 全国平均以上を100%85%	75.85% 未実施 88.9%		99%	B	○問題文を読み聞かれたことに正しく答える「読む力」に課題があった。また、漢字や計算などの基礎学力の定着に個人差があった。 ○R80Iによる振り返りを全教科で実施することで、定着をはかることができた。そのことによって、自分が成長したと感じる児童が93.1%になった。しかし、内容については教科によってばらつきがあった。	○ 新たな学びや課題発見につながるよう、児童間や職員間での振り返り内容の交流・共有。 ○ 児童の習熟度を把握し、基礎学力定着に繋げる「ドリルパーク」の活用。(児童：自己分析、教師：実態把握)			○	○児童の学力の定着が図られてないところをきちんと把握し、指導することで学力の定着を図ってほしい。 ○ドリルパークの有効活用を行ってほしい。 ○児童一人一人の学力差がある中で目標値も高いけどがんばっている。 ○日々の授業やドリルタイム・個別指導を通して、児童の学力向上のため学校全体で取り組まれているのがよくわかる。CDT・NRT、6年生の全国学力・学習状況調査の事前・事後の取組については、学級懇談会や個人懇談会を通して理解を深めるとともに、定着度の低かった児童や設問については重点的に指導してほしい。 ○文章がすらすら読めなくては、内容を理解することは難しい。音読練習は必要だと思う。			
		○生活科・総合的な学習の時間における探究的な学びを通した思考力・表現力の育成	○生活科・総合的な学習の時間における探究的な単元構想 ○一人一回以上の授業研究と、全員参加の協議による授業改善	○学ぶことで自分が成長していると感じている児童の割合(%) ○課題解決に向けて児童が主体的に考えるよう単元構成や振り返りを工夫したと回答する指導者の割合	80% 85%	93.1% 94.4%		116%	A	○今年度は児童の「知りたい・解決したい」という思いを学習の中心に置いた授業改善に努めた。しかし、「成長を感じていない」と答えた1割の児童に対する手立てが不十分であった。 ○生活科・総合的な学習の時間の授業研の中で、講師を招いた理論研修を前期に集中して実施することで、授業改善に努めた。	○ 児童の「やってみたい」という思いを基に課題を設定し、単元構成。			○				
豊かな心	地域を愛する心を持つとともに、自他を尊重し、安心・安全な集団を育てる。	◎コミュニティスクールの良さを生かし、地域(人・もの)と関わり、地域を愛する児童の育成	○地域ゲストティーチャーや読書ボランティアなどを積極的に活用 ○各教科、道徳の時間、総合的な学習の時間等で地域学習の導入	○感謝の気持ちを表現することができている児童の割合	95%	96.30%		101%	A	学校運営協議会をもとにしたコミュニティスクールや社会福祉協議会、本郷町観光協会など、地域の方々と関わる機会を多くもつことができた。また、交流することを通して、手紙を書いたり、成長した姿を直接見てもらうことで、感謝の気持ちを自然と伝えることができた。	○ 感謝の気持ちを伝える機会を設け、心のこもった挨拶や礼儀正しい態度を身につける指導の継続。			○	○「学校が楽しい」と答えなかった児童については、その原因や背景を探りながら寄り添ってほしい。 ○「学校が楽しい」と回答した児童の割合は、高学年の方が低いが、これは自分の気持ちを正直に表現できている結果とも捉えられる。また、友達同士の繋がりがりや先生方のサポートもあり、気持ちを伝える力が育まれているのだろう。 ○登校中、横断歩道で車に一礼する児童が増えた。また、工事の作業員の方々に挨拶する姿も見られる。 ○地域との連携を図った教育活動を年度当初から実態に合わせて繰り返しながら進めてきているのはよい。児童には、地域や人に対する理解や感謝の心が育っている。 ○長年続けられている朝の読み語りも素晴らしい。 ○章刈りの後、手紙をいたてたことがとても嬉しかった。			
		○児童の主体的な児童会活動の創造	○児童の発想を生かした、児童会活動・学級会活動の充実	○学校が楽しいと回答する児童の割合	95%	90.20%		95%	B	低学年：91% 高学年：89.2% 「友達に会うことが楽しい」「みんなが優しい」と答える児童が多い一方、「一人でいるときがある」「からかわれる」などといった、友達との関係に不安感のある児童もいる。	○ 児童会を中心に、全校児童が大きな目標に向かって協力する活動の計画。 ○ 特別活動での係活動や話し合い活動の充実を通じた、学習集団のまとまり形成と環境づくりの推進。			○				
健やかな体	体力を高め、自他の健康を大切にしようとする意識を育てる。	◎基礎体力の向上	○体育科授業における鉄棒、なわとびの継続的取組 ○学級レクや全校体育集会など、体を動かして遊ぶ楽しさを感じる体験活動の充実	○鉄棒：逆上がりができる児童の割合(%) ○なわとび 低学年：前回し跳びが50回以上できる児童の割合(%) 高学年：二重跳びが1回以上できる児童の割合(%) ○体を動かすことが好きと答える児童の割合(%)	70% 85%	未実施 90.3%		106%	A	○熱中症対策のため外での活動が制限され、鉄棒と縄跳びの実態調査はできなかった。 ○体を動かす体験活動をさせるために、体育集会でのレクリエーションや縦割り班での外遊びを取り入れた。縦割り班での外遊びは高学年が中心になって遊びを運営し、異学年で楽しく活動した。	○ 体育授業での縄跳び台やぐるりんベルトの活用、および「鉄棒・縄跳びカード」の活用による意欲向上。 ○ 体育集会や行事を通しての体を動かす楽しさの体験と、「外遊びday」の設定。			○	○鉄棒や縄跳びの評価については、学年に応じた目標を掲げ、体育科の授業だけでなく、家庭の協力を仰ぎながら年間を通して取り組めるものにしたい。 ○昨年と今年の9月の気温を比較すると、かなり上昇しており、今後の体育授業への影響が心配される。			
		○清掃活動の質の向上 ★無言、時間いっぱい、隅々まで	○掃除の仕方の指導の徹底 ○短期集中取組期間の設定	○短期集中取組期間に教師の見取りによる「無言」「時間いっぱい」「隅々まで」ができる児童の割合	80%	77.8%		96%	B	○「無言」「時間いっぱい」「隅々まで」の取組が児童に定着しつつある。縦割り班で高学年が低学年の手本となっている。	○主体的に取り組むことができるようにするために、掃除後に隅々までやった場所や自分で見つけてきれいにした場所などを交流する場を設定。			○	○以前、児童が掃除をしている様子を見たが、高学年が低学年の手本となり、しっかり掃除をしていた。縦割り班の取組が良い成果を出しているので、今後も継続してほしい。			
信頼される学校	地域や家庭の願いに応えるとともに、15年間を見据えた教育を行う。	◎信頼される学校・教職員	○学校運営協議会を活用した、地域・児童の実態・願いの把握・共有 ○時期に応じた参加型の服務研修の実施	○保護者アンケート「本校は安心して子供を通わせることができる。」に肯定的に回答する保護者の割合	90%	98%		109%	A	○学校運営協議会との連携や積極的な情報発信により、多くの保護者に安心感をもっていただくことができています。 ○定例や臨時の服務研修を行い、教員が不祥事や問題行動に対する高い課題意識を持つことができています。	○ 学校運営協議会との連携による、地域や児童の願いに応える教育活動の推進。 ○ 職員の適正な服務の徹底。			○	○地域と学校がそれぞれの役割を果たし、より安心できる学校づくりを進めてほしい。 ○職員の健康に配慮しつつ、より良い教育活動を引き続き推進してほしい。			
		○働き方改革	○部を中心とした計画的・組織的な業務運営 ○目安として示す入校時刻・退校時刻の厳守	○時間外勤務月45h以下を6か月以上実施	100%	83%		83%	B	○前期6か月中、5か月で全職員が45時間以下を達成することができている。退勤時間も概ね守られている。	○ 組織的な業務運営による、職員の時間外勤務時間の短縮。 ○ 仕事の質を高め、職員の「やりがい」に繋がる業務内容の見直し。			○	○保護者アンケートの結果から、学校の取組が肯定的に評価されていて素晴らしい。 ○放課後の限られた時間の中、先生方の熱意には感謝している。			
本年度の重点目標については◎印で示す。										【j:自己評価 評価】 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60				【l:学校関係者評価 評価】 イ:自己評価は適正である。 ロ:わからない。 ハ:自己評価は適正でない。				